

呼吸器内科専門医プログラム I

1. コンセプト

呼吸器内科医として主要な疾患を中心に症例を重ねると共に、稀な症例や複雑な症例も経験する。

2. 短期目標

定型的な呼吸器疾患のみならず、稀な疾患、複雑な状態の患者への対応力を養う。

3. 取得手技と経験する疾患

CT ガイド下生検、気管支内視鏡検査（BAL、TBLB、異物処置、レーザー等の治療手技）、診断と治療【肺腫瘍性疾患（肺癌など）、胸膜疾患（悪性中皮種など）、縦隔疾患、感染症および炎症性疾患（肺結核を含む）、慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、細気管支炎（びまん性汎細気管支炎など）、アレルギー性肺疾患、特発性間質性肺炎、サルコイドーシス、稀少性肺疾患（肺胞蛋白症、肺リンパ脈管筋腫症など）、じん肺症、肺循環障害、薬剤・化学物質・放射線による肺障害、全身疾患に伴う肺障害（膠原病肺など）、呼吸中枢の疾患（睡眠時無呼吸症候群を含む）、慢性呼吸不全、急性呼吸不全（急性呼吸促迫症候群）】